

すべての病院と指定された診療所のがん患者のデータの届け出を義務付けた「全国がん登録」が2016年から始まっています。

13年12月に成立した「がん登録推進法」が施行され、患者の同意がなくても、病院↓都道府県↓国と集約される仕組みが動き出しました。今年1月、16年の新規がん患者数などが公表されました。全国がん登録による初集計となります。

16年に新たに診断されたがんは約99万5千例（男性は約56万7千例、女性約42万8千例、性別不明も含む）でした。これは医療機関が任意で届け出ていた従来の方式（地域がん登録）で集計した数字を10

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

「男性62% 女性47%」への備え

いかと思います。また、従来の地域がん登録では、データの欠落などを埋める作業も必要のため、公表までに3年以上かかっていました。しかし、今回は2年余りに短縮できています。

2人、女性2人に1人がこの病気にかかる時代になったといえるでしょう。まさに「がん社会」の到来です。

日本人が生涯で何らかのがんにかかる確率（累積がん罹患（りかん）リスク）は14年のデータに基づく数字が最新の

かく言う私も、昨年末に膀胱（ぼうこう）がんを自分で発見し、内視鏡で切除を受けました。しかし、がんになるとはつゆほども思っていました。生んだことから不思議です。生き物の本能は、自分が死ぬ、重い病気になることなどを想定していないように感じています。

万人以上も上回ります。全国がん登録がスタートする以前の15年の新規患者数は

せんから、全国がん登録によって、より真実に近い数字が出たといえるのでしよう。

で、男性62%、女性47%とされています。しかし、全国がん登録制度の始動で一気に増えた16年のデータを使えば、

しかし、男性で3分の2、女性でも2分の1の確率ですから、理性を持つ人間としてこの大きなリスクに向き合え、備えておく必要はあるといえるでしょう。

男女計で約89万1千人でした。わずか1年で10万人も患者数が増えたとは考えられま

私自身も関わったこの制度によって、がんの本当の姿が捉えられたといえるのではな

がんになる確率はもっと上がるはず。今や男性3人に

（東京大学病院准教授）